

Scale 1/43

# #02024

available

# 09/2020

Limited edition 333 Stk.



## オフシュート

フランスの自動車メーカー シムカにとって、1951年は独立に向けた大きな一歩となりました。その年、同社は最初の自社開発車、タイプ「9 Aronde」を発表しました。同時に設計者は1955年10月に「Aronde (90A)」の名称で一般に公開されることになる後継車に、すでに取り組んでいました。アロンドラインの2番目のモデルは、前任モデルの足跡をたどり、すぐに生産が50万台に達する可能性がありました。シムカは独立した自動車メーカーとしての地位を確立したと自信をもって言える段階に達していたかもしれませんが、アロンドをさらなる後継車の土台として使用するという考えが大きくなっていました。

このアイデアは短期間で実現され、1956年10月から「オセアーヌ」と「プラン シエル」と呼ばれる2種類のエクスクルーシブな後継車が提供されました。どちらも同様の仕上げで、ボディラインは抜群の真直度で実現され、アメリカのデザインとの関連が何ヶ所か見られます。広いラジエーターグリルと大きく湾曲したフロントガラスは、

その特徴としてしばしば言及されています。ルーフのデザインは、最終的には両方のアロンドの後継車の大きな違いでした。「オセアーヌ」はコンバーチブルとして設計され、「プラン シエル」(フランス語の「大きな空」)にはハードトップが装備されていました。当初から、両方のモデルはスポーティなバージョンと見なされていたため、少数のファンにしかアピールできなかったため、生産台数は数少ないものでした。シムカのような大規模な製造メーカーは、このような特別なモデルを従来の組み立てプロセスに組み込むことができず、車体の製造を小規模メーカー「Facel」に委託しました。もちろん、主に手作業で行われた独占的な生産にはコストがかかり、その価格は顧客が負担することになりました。

6年間の総生産台数は約6,000台になったので、大規模自動車メーカーの独占モデルという基準を十分に満たしていると言えるかもしれません。

**AutoCult GmbH**  
Äußere Further Straße 3  
90530 Wendelstein  
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280  
ファックス +49 / 9129 / 296 4281  
info@autocult.de

[www.autocult-models.de](http://www.autocult-models.de)